

■ 掲示板

■ 大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所技術職員公募について（公募番号 機構技術14-1）

本機構では、下記のとおり技術職員を公募いたします。

1. 公募職種及び人員：

技師又は准技師 1名（物質構造科学研究所）

本機構の技術職員の職名は、主任技師、先任技師、専門技師、技師、准技師及び技術員である。

本機構の技術職員の定年は60歳である。

2. 職務内容：

物質構造科学研究所・中性子科学研究系に所属し、J-PARCにおいて、中性子検出器システムの開発・保守の中核を担うとともに、中性子実験機器の運転・保守を行う。勤務地は、東海キャンパスである。

3. 応募資格：

中性子検出器について熟知し、開発する能力を有すること。物質科学実験用機器の運転及び保守ができ、特に実験を安全に行うための対策を講じる能力があること。また、中性子を用いた物質科学研究についての基礎知識を有することが望ましい。

4. 公募締切：平成26年4月21日(月)17時必着

5. 着任時期：平成27年4月1日以降出来るだけ早い時期

6. 選考方法：

一次選考：書類選考（一次選考合格者には5月2日(金)までに原則として電子メールアドレス宛、二次選考の詳細を通知する。）
二次選考：面接試験（略歴、業務歴（これまでに経験した業務は具体的にどのような装置・設備に関するものか。また、その中で担当した役割やアピールしたい点等も含む。）及び志望の動機についてプレゼンテーション（20分）を行っていただきます。）

7. 二次選考の日時及び場所：

日時 平成26年5月中旬（決定次第、本公募ページ上に掲示します。）

場所 高エネルギー加速器研究機構内（茨城県つくば市大穂 1-1）

8. 提出書類：

- (1) 履歴書（通常の履歴事項の後に、応募する公募番号、研究施設の名称、及び電子メールアドレスがある場合は明記すること。）
- (2) これまでの仕事の概要（これまでに経験した業務は具体的にどのような装置・設備に関するものか。また、その中で担当した役割やアピールしたい点について、具体的に記述すること。）
- (3) 業績リスト、講演リスト
- (4) 志望の動機及び抱負（A4用紙1枚以内）

※上記書類は履歴書用紙を除きすべてA4横書きとし、それぞれ別葉として各葉に氏名を記入すること。

9. 書類送付先：

〒305-0801 茨城県つくば市大穂 1-1

大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構 総務部人事

労務課人事第二係

封書に「技術職員公募（機構技術14-1）書類在中」と朱書きし、郵送の場合は書留とすること。

10. 問い合わせ先：

- (1) 業務内容について

物質構造科学研究所

副所長・技術調整役 村上洋一

TEL 029-864-5589（ダイヤルイン）

- (2) 提出書類について

総務部人事労務課人事第二係

TEL 029-864-5117（ダイヤルイン）

11. その他：

本機構は、男女共同参画を推進しており、女性の積極的な応募をお待ちしております。

（参考）男女共同参画推進室ホームページ <http://geo.kek.jp/index.html>

■ 第14回（平成26年度）一般財団法人材料科学技術振興財団 山崎貞一賞 候補者募集

1. 授賞対象分野：

- (1) 「材料」 (2) 「半導体及び半導体装置」 (3) 「計測評価」 (4) 「バイオサイエンス・バイオテクノロジー」

2. 授賞対象者：

- (1) 授賞対象は、論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用化につながる優れた創造的業績を上げている人（複数人可・総計3名以内）とします。
- (2) 候補者の国籍は問わず、日本国内において業績をあげた人を授賞対象とします。
- (3) 過去に応募されたことのある人でも再応募可能です。

3. 顕彰：各分野それぞれに賞状及び副賞（18金メダル・賞金300万円）を贈呈します。

4. 募集期間：平成26年2月1日から4月末日(必着)

5. その他：詳細につきましては、ホームページをご覧ください。※検索サイトで“山崎貞一賞”と検索下さい。トップページ (<http://www.mst.or.jp/prize/>) へのリンクがすぐに見つかります。

6. 推薦書・応募書請求先、提出先：

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見 1-18-6

一般財団法人 材料科学技術振興財団 山崎貞一賞事務局

TEL：03-3415-2200 E-mail：prize@mst.or.jp

FAX：03-3415-5987 URL：http://www.mst.or.jp/prize/

■東京大学物性研究所教員公募について

下記により助教の公募を行いますので、希望者への周知または適任者の推薦をお願い致します。

1. 部署、公募職名及び人員数：

附属極限コヒーレント光科学研究センター（小林研究室）助教 1名

2. 職務内容：

本研究室では新型レーザーの研究開発およびそれによる新しい分光法の研究を行っており、光科学と物質科学の融合領域を含む幅広い研究対象を扱っている。本研究分野の経験は問わないが、小林所員と協力して新しい光科学の開拓をすることに意欲のある若手研究者を希望する。

3. 応募資格：

博士課程修了、またはこれと同等以上の能力を有する者。（着任予定時期までに上記学位の取得見込みの者も含む。）

4. 任期：5年。ただし、審査の上、1回を限度として再任を認める。

5. 公募締切：平成26年5月2日(金)必着

6. 着任時期：決定後できるだけ早い時期

7. 提出書類：

(イ) 推薦の場合

- 推薦書
- 履歴書（略歴で可）
- 業績リスト（特に重要な論文に○印をつけること）
- 主要論文の別刷（3編程度、コピー可）
- 研究業績の概要（2000字程度）
- 研究計画書（2000字程度）

(ロ) 応募の場合

- 履歴書（略歴で可）
- 業績リスト（特に重要な論文に○印をつけること）
- 主要論文の別刷（3編程度、コピー可）
- 所属長・指導教員等による応募者本人についての意見書（作成者から書類提出先へ直送）
- 研究業績の概要（2000字程度）
- 研究計画書（2000字程度）

8. 書類提出先：

「附属極限コヒーレント光科学研究センター 小林研究室 助教 応募書類在中」の旨を朱書し、下記住所まで書留にて郵送または持参すること。

〒277-8581 千葉県柏市柏の葉5丁目1番5号

東京大学物性研究所総務係

TEL：04-7136-3207 E-mail：issp-somu@kj.u-tokyo.ac.jp

9. 本件に関する問合せ先：

東京大学物性研究所附属極限コヒーレント光科学研究センター 准教授 小林洋平

TEL：04-7136-3365 E-mail：yohei@issp.u-tokyo.ac.jp

10. 選考方法：

東京大学物性研究所教授会にて審査、決定する。ただし、適任者のない場合には決定を保留する場合がある。

11. その他：

応募書類等は返却しないので、了解の上、申込むこと。また、応募書類は本応募の用途に限り使用し、個人情報等を正当な理由なく

第三者へ開示、譲渡及び貸与することはない。

■平成26年度後期 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 放射光共同利用実験課題公募

1. 募集対象：当施設の放射光および低速陽電子を利用する実験。主に大学等の研究者を対象としますが、科学研究費助成事業の申請資格を有する企業等の基礎研究も対象となります。

2. 応募期限：

平成26年5月中旬（一般課題、特別課題）

平成26年5月下旬（大学院生奨励課題）

なお、予備実験・初心者型課題については、平成26年度からは随時受付いたします。

3. 応募要領：

実験課題申請システム <https://pmsweb.kek.jp/k-pas/> を利用した電子申請となります。

申請受付は一般課題、特別課題については4月中旬、大学院生奨励課題については4月下旬に受付を開始する予定です。

具体的な申請書作成等に関する詳細については <http://uskek.kek.jp/apply/pf.html> をご参照ください。

4. その他：研究成果は公表していただきます。

5. 問合せ先：

高エネルギー加速器研究機構

研究協力部研究協力課

共同利用支援室共同利用係

E-mail：kyodo1@mail.kek.jp

TEL：029-864-5126

■東京大学物性研究所教員公募について

下記により助教の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

1. 研究部門名等および公募人員数：

附属極限コヒーレント光科学研究センター軌道放射物性研究施設 播磨分室（和達研）助教1名

2. 研究内容：

放射光施設 SPring-8 ビームライン BL07LSU において放射光軟X線を用い、強相関物質や固体表面の電子構造や磁性の研究を行う。放射光実験の経験のある方が望ましいが、これまでの専門分野は問わない。

3. 勤務地：兵庫県佐用郡佐用町光都1-1-1 SPring-8内

4. 応募資格：修士課程修了、またはこれと同等以上の能力を持つ方。

5. 任期：任期5年、再任可。ただし、1回を限度とする。

6. 公募締切：平成26年5月30日(金)必着

7. 着任時期：決定後なるべく早い時期

8. 提出書類：

(イ) 推薦の場合

- 推薦書
- 履歴書（略歴で可）
- 業績リスト（特に重要な論文に○印をつけること）
- 主要論文の別刷（3編程度、コピー可）
- 研究業績の概要（2000字程度）
- 研究計画書（2000字程度）

(ロ) 応募の場合

- 履歴書 (略歴で可)
- 業績リスト (特に重要な論文に○印をつけること)
- 主要論文の別刷 (3編程度, コピー可)
- 所属長・指導教員等による応募者本人についての意見書 (作成者から書類提出先へ直送)
- 研究業績の概要 (2000字程度)
- 研究計画書 (2000字程度)

9. 書類提出先:

〒277-8581 千葉県柏市柏の葉5丁目1番5号

東京大学物性研究所総務係

TEL: 04-7136-3207 E-mail: issp-somu@kj.u-tokyo.ac.jp

10. 本件に関する問合せ先:

東京大学物性研究所 准教授 和達大樹

TEL: 04-7136-3400 E-mail: wadati@issp.u-tokyo.ac.jp

11. 注意事項:

「極限コヒーレント光科学研究センター播磨分室 助教応募書類在中」, または「意見書在中」の旨を朱書し, 郵送の場合は書留とすること。

12. 選考方法:

東京大学物性研究所教授会にて審査決定いたします。ただし, 適任者のない場合は, 決定を保留いたします。

13. その他:

お送りいただいた応募書類等は返却いたしませんので, ご了解の上お申込み下さい。また, 履歴書は本応募の用途に限り使用し, 個人情報とは正当な理由なく第三者への開示, 譲渡及び貸与することは一切ありません。

■高エネルギー加速器研究機構次期機構長候補者の推薦依頼

大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構では, 2015年(平成27年)4月1日付けで任期が始まる次期機構長の候補者について推薦を求めています。

本機構は, 素粒子原子核研究所, 物質構造科学研究所及び加速器研究施設と共通基盤研究施設とを擁し, 国内外の研究者に開かれた大学共同利用機関法人であります。本機構における研究分野は, 加速器を共通の研究手段として, 高エネルギー物理学, 原子核物理学, 物質科学, 生命科学, 加速器理工学など, 多岐にわたっております。

機構長候補者は, ①高度な先端性, 国際性及び学際性を持つ高エネルギー加速器研究機構を, 社会の理解と支持を得ながら, 長期的なビジョンと強い学問的リーダーシップを発揮し発展させることができ, ②中期目標・中期計画の策定及び推進に優れた手腕を有する者であることとしております。

なお, 機構長の任期は3年です。再任された場合には, 引き続き9年まで在任できることとなっております。また, 国籍は問いません。

については, 上記①及び②を踏まえて, 適任者のご推薦をお願いいたします。

提出書類: (1)機構長候補者推薦書, (2)候補者略歴, (3)主たる業績リスト, (4)推薦理由

※使用言語は, 日本語または英語にてお願いいたします。

(各様式については, 下記のページより取得してください。

<http://www.kek.jp/ja/NewsRoom/Release/20140301090000/>

ご不明な点がございましたら, 下記問合せ先にご連絡ください。)

推薦期限: 平成26年5月30日(金)必着

推薦書提出先及び問合せ先:

〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1

高エネルギー加速器研究機構

総務部総務課総務係

TEL: 029-864-5114

E-mail: shomu@mail.kek.jp

■東京大学物性研究所教員公募について

下記により助教の公募をいたします。適任者の推薦, 希望者への周知をお願いいたします。

1. 研究部門名等および公募人員数:

附属中性子科学研究施設(柴山研究室) 助教1名

当施設は日本原子力研究所研究用原子炉(JRR-3)を用いた中性子散乱実験の全国大学共同利用機関であり, 茨城県那珂郡東海村に設置されている。したがって, 主たる勤務地は同設置場所である。

2. 研究内容:

中性子散乱, 特に小角中性子散乱法を用いたソフトマターの構造・ダイナミクスの研究に従事し, 中性子散乱法の開発にも強い関心をもつ意欲のある若手研究者を希望する。中性子散乱の経験の有無は問わない。全国共同利用に関連する業務(実験設備の維持・管理・改良, 共同利用者の実験支援など)を分担していただく。

3. 応募資格: 修士課程修了, またはこれと同等以上の能力を持つ方。

4. 任期: 5年。ただし, 審査の上, 1回を限度として再任を認める。

5. 公募締切: 平成26年6月30日(月)必着

6. 着任時期: 決定後なるべく早い時期

7. 提出書類:

- a) 履歴書 (略歴で可)
- b) 業績リスト (特に重要な論文に○印をつけること)
- c) 主要論文の別刷 (3編程度, コピー可)
- d) 研究業績の概要 (2000字程度)
- e) 研究計画書 (2000字程度)

○推薦の場合は, 推薦者が a-e 及び推薦書を書類提出先へ送付

○応募の場合は, 応募者が a-e を書類提出先へ送付し, 所属長・指導教員等が応募者本人についての意見書を書類提出先へ直送

8. 書類提出先:

〒277-8581 千葉県柏市柏の葉5丁目1番5号

東京大学物性研究所総務係

TEL: 04-7136-3207 E-mail: issp-somu@kj.u-tokyo.ac.jp

9. 本件に関する問合せ先:

東京大学物性研究所附属中性子科学研究施設 教授 柴山充弘

TEL: 04-7136-3418 E-mail: shibayama@issp.u-tokyo.ac.jp

10. 注意事項:

附属中性子科学研究施設(柴山研究室)「助教応募書類在中」, または「意見書在中」の旨を朱書し, 郵送の場合は書留で郵送のこ

と。

11. 選考方法：

東京大学物性研究所教授会にて審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留する。

12. その他：

応募書類等は返却しないので、了解の上、申込むこと。また、応募書類は本応募の用途に限り使用し、個人情報等を正当な理由なく第三者へ開示、譲渡及び貸与することはない。

■東京大学物性研究所教員公募について

下記により助教の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

1. 研究部門名等および公募人員数：

附属極限コヒーレント光科学研究センター（近藤研究室）助教1名

2. 研究内容：

当研究室では、真空紫外から軟X線領域までの極限レーザー光源を駆使した角度分解、スピン分解、時間分解などの先端的な光電子分光の装置開発及び実験に重点を置くと共に、放射光も活用しつつ、凝縮系物理学の研究を推進する計画である。これまでの経験は問わないが、この計画に参画し、物性研究の新たな領域を開拓することに意欲のある研究者を希望する。

3. 応募資格：

博士課程修了、またはこれと同等以上の能力を持つ方。

（着任予定時期までに上記学位取得見込みの者を含む。）

4. 任期：任期5年、再任可。ただし、1回を限度とする。

5. 公募締切：平成26年6月30日（月）必着

6. 着任時期：決定後なるべく早い時期

7. 提出書類：

(イ) 推薦の場合

- 推薦書
- 履歴書（略歴で可）
- 業績リスト（特に重要な論文に○印をつけること）
- 主要論文の別刷（3編程度、コピー可）
- 研究業績の概要（2000字程度）
- 研究計画書（2000字程度）

(ロ) 応募の場合

- 履歴書（略歴で可）
- 業績リスト（特に重要な論文に○印をつけること）
- 主要論文の別刷（3編程度、コピー可）
- 所属長・指導教員等による応募者本人についての意見書（作成者から書類提出先へ直送）
- 研究業績の概要（2000字程度）
- 研究計画書（2000字程度）

8. 書類提出先：

〒277-8581 千葉県柏市柏の葉5丁目1番5号

東京大学物性研究所総務係

TEL：04-7136-3207 E-mail：issp-somu@kj.u-tokyo.ac.jp

9. 本件に関する問合せ先：

東京大学物性研究所 准教授 近藤 猛

TEL：04-7136-3367 E-mail：kondo1215@issp.u-tokyo.ac.jp

10. 注意事項：

「極限コヒーレント光科学研究センター（近藤研究室）助教応募書類在中」、または「意見書在中」の旨を朱書し、郵送の場合は書留とすること。

11. 選考方法：

東京大学物性研究所教授会にて審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。

12. その他：

お送りいただいた応募書類等は返却いたしませんので、ご了解の上お申込み下さい。また、履歴書は本応募の用途に限り使用し、個人情報は正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することは一切ありません。

■独立行政法人理化学研究所 准主任研究員（定年制職員）公募

独立行政法人理化学研究所では、以下の要領で准主任研究員を公募します。

1. 募集人数：1名

2. 募集分野：研究分野は特定しません。応募者自身の自由な発想に基づく研究分野を開拓していただきます。

3. 応募資格：長期的視野を持つ、次世代の科学技術分野を創成できる自律的研究者で、研究室を主宰するのに十分な能力と研究業績を有する方。（博士取得後10年未満程度）

4. 研究資金、権限、責任の範囲：

- (1) 研究室立ち上げから最初の5年間で総額1億円を支給します。
- (2) 所内、所外の様々な競争的研究資金への応募が可能です。
- (3) 任期制研究員の人事推薦、基礎科学特別研究員/ジュニアリサーチアソシエイトの受け入れ、物品購入、研究資金申請、研究スペース申請等の権限があります。
- (4) 室員のサービス管理、予算執行管理、物品使用管理等の責任があります。
- (5) 定年制研究員の人事推薦権はありません。（既存の定年制研究者が移籍により室員となることは可。）その他の詳細は、<http://www.riken.jp/careers/researchers/20140401/>をご覧ください。

5. 待遇等：年俸制（報奨金制度有り）。通勤手当、住宅手当の支給有り。社会保険の適用有り。

休日は、土日、祝日、年末年始（12/29-1/3）、当研究所設立記念日。その他、当研究所規程による。理研共済会（互助組織）に要入会。

日本学生支援機構奨学金（平成15年度までに大学院第一種奨学生に採用されている場合）の返還特別免除の対象職。科学研究費補助金の申請資格有り。

6. 勤務形態：常勤、60歳定年。

勤務地は、研究実施上の適性によって決定いたします。

7. 着任時期：2015年4月1日（原則）

8. 選考方法：書類審査による一次選考の後、2014年10月14日（火）に面接セミナーを行います。

選考の結果は、合否に関わらず通知致します。（Form1にご記入頂いたメールアドレスに通知致します。）

審査内容、選考結果に関する個別の問合せはお受けできませんの

で予めご了承下さい。

9. 応募様式・その他：詳細は HP を参照して下さい。

http://www.riken.jp/careers/researchers/20140401/

10. 応募締切：2014年6月30日(月)17時(日本時間) 必着
書類提出は郵送もしくは直接持参に限定。郵送の場合は必ず書留とする。E-mail, FAX での申請の他、書類不備や締切り後の申請は受け付けません。また、書類の返却はいたしません。

11. 書類提出・問合せ先：

〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1

(独)理化学研究所 外務・研究調整部 准主任研究員事務局

E-mail : riken-acsc2@riken.jp

電話による問合せ不可

〔個人情報取扱について〕

提出頂いた書類は、独立行政法人理化学研究所個人情報保護規程に則り厳重に管理し、採用審査の用途に限り使用され、正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することは一切ございません。

■ 会告

■ 第18回日本放射光学会奨励賞選考結果報告

2013年9月21日開催の学術等選考委員会の選考結果として3名が推薦された。

氏名、所属、並びに、選考理由は下記の通り。

その結果を受け、第100回評議員会にて第18回日本放射光学会奨励賞の授与が承認され、第27回総会にて賞状並びに副賞のメダルが授与された。

・長坂将成 (自然科学研究機構分子科学研究所)

「軟 X 線分光法による分子系の局所解析とその場観測手法の開発」

長坂将成氏は、軟 X 線アンジュレータ光源を利用した、小さなクラスターの軟 X 線光電子分光法 (XPS) および軟 X 線吸収分光法 (XAS) の研究、さらには液体・溶液の XAS の研究において顕著な研究成果を挙げてきた。特に、後者の研究においては、実験技術と化学研究の両面において、長坂氏の独創性がいかに発揮されている。すなわち、ごく薄い 20 nm ~ 1 μm の範囲で液体・溶液のサンプル厚を自在にコントロールできる、電極を内包した赤外線・軟 X 線共用の微小吸収セルを開発し、今まで困難であった液体・溶液の軟 X 線領域の XAS を独自に開発した。そのうえで、電極電圧をパラメータとして、硫化鉄溶液の鉄の L 端の吸収スペクトル形状の変化から、鉄の酸化還元反応をその場観測することに成功した。この研究成果は、溶液の電気化学分野への放射光軟 X 線の有用性を初めてアピールしたものであり、マイルストーン的な価値ある仕事である。

以上のように、長坂将成氏の成果は高く評価でき、本学会奨励賞を授賞するに値する。

・宮本幸治 (広島大学放射光科学研究センター)

「スピン分解光電子分光を用いたディラック電子系の先駆的研究」

宮本幸治氏は、広島大学放射光科学研究センター (HiSOR) でスピン分解光電子分光に関する測定技術の開発 (高感度電子スピン検出器の開発など) を行って、世界最高水準のエネルギー・運動量分解能を達成するとともに、開発した装置を用いてその性能を十分発揮させた表面電子構造研究を行ってきた。また、宮本氏は、これまで HiSOR で行われた数多くの SRPES 実験でも中心的な役割を担い、数多くの論文を発表している。とくに、宮本氏が行った磁性薄膜やトポロジカル絶縁体のスピン偏極した表面電子状態の研究、タングステン単結晶表面に現れるディラックコーン型のスピン偏極表面電子帯の観測成功などの研究成果は、

国内外で高い評価を得ている。宮本氏は、昨年の若手研究会「表面電子のスピンが生み出す物理の最前線—ラッシュバ効果、トポロジカル絶縁体—」でも共同提案者としても活躍し、放射光を利用する物質科学研究分野で将来有望な研究者の一人である。

宮本氏が行った装置開発とそれを応用した物質科学研究の両面で成果は高く評価でき、本学会奨励賞を授賞するに値する。

・吉松公平 (東京工業大学大学院理工学研究科応用化学専攻)

「放射光光電子分光による強相関量子井戸状態の観測」

吉松公平氏は、東京大学がフォトンファクトリーに設置したレーザー分子線エビタキシ (LMBE) の改良・性能向上において、中心的な役割を担ってきた。放射光を利用する光電子分光実験によって、この LMBE を用いて生成した強相関電子系物質の薄膜の電子状態について精力的に研究してきた。特に、博士課程在学中に行った遷移金属酸化物薄膜の研究は、強相関電子系の量子井戸状態に初めて着目した研究成果として高く評価されている。

吉松氏の成果は、放射光を利用する物質科学研究分野で高い価値を持つものであり、本学会奨励賞を授賞するに値する。

■ 第1回日本放射光学会功労報賞選考結果報告

2013年10月19日開催の第100回評議員会にて、村上会長より受賞候補者2名が推薦された。審議の結果、第1回日本放射光学会功労報賞の授与が承認され、第27回総会にて賞状の授与を行った。

氏名、所属、並びに、選考理由は下記の通り。

・浅利桂一 (神津精機株式会社)

我が国における放射光利用の出発点は、旧東大原子核研究所の 1.3 GeV 電子シンクロトロンから発生する放射光を用いた 1964 年の分光予備実験 (可視・SX) である。1971年に放射光専用加速器 (SOR-RING) の建設が開始され、1974年12月14日~15日にかけて放射光が確認された。浅利桂一氏は1967年以来、放射光利用実験のために様々な装置開発を行ってきた。この46年間に及ぶ、放射光を用いる研究者の要望に応えようとする開発者魂が、今日の放射光計測技術および放射光科学の発展の重要な礎石の一つになったと言っても過言ではない。

これまでの浅利氏の「放射光科学を支える技術者」としての実績は高く評価でき、本学会功労報賞を受賞するに値する。

・藤澤正美 (東京大学物性研究所)

藤澤正美氏は、32年間に渡って SOR-Ring, Photon Factory, SPring-8, UVSOR 放射光施設においてビームラインの設計・建

設・維持、そして改良に従事してきた。これらのピームラインにおける様々な分野の研究成果は、藤澤氏のこれまでの献身的な努力に負うところが大きい。また同氏は、現在も引き続き、次世代光源用分光器の設計・製作及び開発を行っている。一方、これまで培った技術を次世代の技術者に伝えることにも熱心であり、同氏の教えを受けた施設及び研究所の技術者は数えきれない。

このように藤澤氏は放射光利用技術及び支援を長年に渡って行ってきた実績は高く評価でき、本学会功労報賞を受賞するに値する。

■日本放射光学会第101回評議員会議事録

日 時：2014年1月12日(土) 11:30~13:00

場 所：広島国際会議場 D会場(コスモスB)

出席者：足立純一、雨宮慶幸、太田俊明、大橋治彦、岡島敏浩、尾嶋正治、加藤政博、鎌田雅夫、木村昭夫(編集幹事)、木村真一、組頭広志、小杉信博、繁政英治、辛 埴、大門 寛、高田昌樹、竹田美和、田中 均、中井 泉、中尾裕則、原田慈久、松田 巖、水木純一郎、村上洋一(会長)、矢橋牧名、山田和芳、山本雅貴
足立伸一(庶務幹事)、木下豊彦(会計幹事)、篠原佑也(行事幹事)、濱 広幸(渉外幹事)

欠席者：石川哲也、佐々木 聡、藤森 淳

事務局：佐藤亜己奈(WORDS)、西野三和子(WORDS)

〈審議事項〉

1. 高輝度中型放射光源計画委員会について
村上前会長より、日本学術会議に提出した放射光科学のマスタープランに基づき、高輝度中型放射光源計画の実現に向けた具体的検討を行う高輝度中型放射光源計画委員会を設置する旨の説明があった。この委員会で議論していく内容については、第1回委員会で審議することとした。
2. 先端光源に関する研究会について
村上前会長より、高輝度中型放射光源の次の光源計画を見据え、先端的な光源加速器技術に関する研究会を企画し、年1回以上の開催を目指すとの説明があった。
3. 2014年世界結晶年に関連する事業について
2014年世界結晶年に関連する事業として、年会の企画講演で世界結晶年を取り上げる、学会誌と学会ホームページに1年間ロゴを掲載する、基礎講習会で結晶学を取り上げる、学会誌で特集記事を企画、等の事業を行う予定との報告があり、これを承認した。
4. 2015年世界光年について
前回の評議員会で詳細を確認することとなっていた世界光年について調べたところ、2013年12月に、2015年を世界光年とすることが正式に決定したことが分かった。今後、他学会と情報交換を行い、連携した取り組みを検討していくとの報告があった。
5. 学会の英語ホームページ整備について
学会の英語版ホームページとして、トップページ、放射光学会とは(活動内容、会長挨拶)、年会のお知らせ、入会案内、月刊誌の紹介、Contactのページを整備することを検討し、渉外委員会で対応していく予定との説明があり、これを承認した。

6. 企業バナー広告の学会ホームページへの掲載について
学会誌の完全電子化を想定して、企業広告収入を確保するため企業バナー広告の学会ホームページへの掲載を検討しているとの報告があった。掲載費用は1件数万円程度(賛助会員と非賛助会員で差をつける)。詳細については今後検討していくこととした。
7. 第27回総会の議事について
足立庶務幹事より、第27回総会の議事案について説明があり、これを承認した。また、2013年度決算・2014年度予算の最終版を確認した。
8. 会員異動
足立庶務幹事より、第100回評議員会以降の入退会申請者に関して、入会：正会員21名(うち学生会員12名)、シニア会員3名、賛助会員1社1口、特別賛助会員1団体1口の報告があり、これを承認した。退会に関して、退会：正会員10名(うち学生会員1名)を確認した。2014年1月12日現在の総会員数は1,359名(うち学生会員141名)、名誉会員5名、シニア会員23名、賛助会員42社(44口)、特別賛助会員9団体(10口)。また、会費3年間未納のための自動退会者23名を確認した。継続をお願いできそうな会員にもう一度評議員から働きかけることとした。
9. 協賛・共催について
濱渉外幹事より本学会に対する協賛、共催依頼について報告があり、協賛10件、共催1件を承認した。

〈報告事項〉

1. JSR14, JSR2015準備状況
篠原行事幹事より第27回年会・合同シンポ(JSR14)の準備状況について報告があった。また、第28回年会・合同シンポ(JSR2015)は2015年1月10日(土)~1月12日(月)に立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催予定との報告があった。
2. 会誌編集状況
木村編集幹事より会誌編集状況について報告があった。また、2014年中に世界結晶年に関連した特集記事を企画予定との報告があった。

評議員会日程(予定)の確認

第102回評議員会 2014年4月12日(土)

場所：関学丸の内キャンパス

第103回評議員会 2014年7月12日(土)

場所：関学丸の内キャンパス

■第27回(2014年)日本放射光学会総会議事録

日 時：2014年1月12日(日) 15:35~16:35

場 所：広島国際会議場 A会場(ダリア)

出席者：出席者：131名 委任状：79名 計：210名

定款第28条により、正会員の1/10(135名)以上の参加で総会は成立。

(議事)

1. 議長選出
議長に加藤政博会員を選出した。
2. 2014年度会長挨拶
村上前会長より挨拶があり、放射光科学将来計画の推進、開か

れた放射光学会の取組, グローバル人材の育成等, 2014年度の活動方針について所信表明があった。

3. 2013年度事業報告
足立庶務幹事より2013年度の学会活動について報告があった。
4. 2014年度事業計画・2014年度学会組織
足立庶務幹事より2014年度の事業計画および2014年度の学会組織(会長, 幹事, 評議員, 各委員会)について報告があった。
5. 2014年度渉外活動方針
濱渉外幹事より, 2014年の世界結晶年への協力, 国内他学会との連携等, 2014年度渉外活動方針について報告があった。
6. 2014年度行事活動方針
篠原行事幹事より, 年会・合同シンポ, 放射光基礎講習会, 若手研究会の開催等, 2014年度の行事活動方針について報告があった。
7. 2014年度編集活動方針
木村編集幹事より, 試料環境シリーズの連載開始, 学会誌の電子化に向けた準備, 世界結晶年とのタイアップ等, 2014年度の編集活動方針について報告があった。
8. 2013年度決算報告
木下会計幹事より2013年度の決算報告があり, これを承認した。
9. 2014年度予算案
木下会計幹事より2014年度予算案が示され, これを承認した。
10. 第1回功労報賞
下記2名を第1回功労報賞の受賞者として決定した旨の報告があった。
浅利桂一氏(神津精機株式会社)
藤澤正美氏(東京大学物性研究所)
11. 第18回学会奨励賞
下記の3名を第18回学会奨励賞の受賞者として決定した旨の報告があった。
長坂将成会員(自然科学研究機構分子科学研究所)
「軟X線分光法による分子系の局所解析とその場観測手法の開発」
宮本幸治会員(広島大学放射光科学研究センター)
「スピン分解光電子分光を用いたディラック電子系の先駆的研究」
吉松公平会員(東京工業大学大学院理工学研究科応用化学専攻)
「放射光光電子分光による強相関量子井戸状態の観測」

■会員異動

第101回評議員会(2014年1月12日)で承認

《正会員入会》

伊藤 廉 株式会社ミルボン 中央研究所
岡崎 浩三 東京大学理学系研究科物理学専攻藤森研究室
松原 伸一 高輝度光科学研究センター
Thet Thet Lwin 北里大学医療衛生学部医療工学科

吉岡 剛志 (公財)高輝度光科学研究センター 利用研究促進部門 ナノ・フォレンジック・サイエンスグループ
橋本 敬 (公財)高輝度光科学研究センター利用研究促進部門ナノ・フォレンジック・サイエンスグループ
木村 展之 ㈱サムスン日本研究所
藤岡 大毅 立命館大学 総合科学技術研究機構 SRセンター
秋葉 勇 北九州市立大学 国際環境工学部

以上9名

《学生会員入会》

金清 裕己 立命館大学 理工学研究科 放射光物理研究室
安松谷太一 立命館大学大学院理工学研究科放射光物理研究室
金田 琢磨 広島大学理学部化学科量子化学研究グループ
徐 健 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻 藤森研究室
山神 光平 大阪大学基礎工学研究科物質創成専攻物性物理学領域関山研究室
大槻 太毅 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻溝川研究室
陳 明皓 北海道大学生命科学院
林 沙也加 名古屋大学大学院工学研究科 渡邊研究室
辻 笑子 広島大学, 工学研究科応用化学専攻, 分析化学研究室
大野 祐貴 大阪大学生命機能研究科光物性研究室(木村研)
竹田 翔一 広島大学理学研究科物理科学専攻, 構造物性研究室
赤司 健太 佐賀大学工学系研究科物理科学専攻

以上12名

《シニア会員入会》

田中健一郎 財団法人高輝度光科学研究センター・XFEL 研究推進室
野田 幸男 東北大学多元研
服部 健雄 東北大学未来科学技術共同研究センター

以上3名

《賛助会員入会》

樫山工業株式会社(1口)

以上1社1口

《特別賛助会員入会》

科学技術交流財団 あいちシンクロトロン光センター(1口)

以上1団体1口

《退会会員》

正会員9名, 学生会員1名

《会員数》

会員1359名(内学生141名) 名誉会員5名 シニア会員23名
賛助会員42社(44口) 特別賛助会員9団体(10口)

日本放射光学会2013年度決算書
自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	細 目	金	額
会費収入	正会員会費収入	8,464,000	11,648,000
	学生会員会費収入	179,000	
	賛助会員会費収入	2,200,000	
	購読会員会費収入	405,000	
	特別賛助会員会費収入	400,000	
会誌収入	会誌広告収入	3,187,296	4,047,477
	会誌販売収入	252,768	
	別刷収入	355,413	
	会誌カラー印刷費	252,000	
年会・合同シンポ収入			12,135,884
事開催収入	基礎講習会	87,000	87,000
単行本出版収入	販売収入 (ビームライン光学技術)	403,500	683,500
	広告収入 (ビームライン光学技術)	220,000	
	販売収入 (検出器ガイド)	60,000	
雑収入	受取利息	701	701
収入の部合計			28,602,562

2. 支出の部

科 目	細 目	金	額
学会誌出版費	会誌印刷費	5,795,611	7,266,809
	別刷印刷費	204,438	
	原稿料	151,000	
	会誌発送費	661,880	
	発送手数料 (ワーズ)	453,880	
単行本出版費	印刷費 (ビームライン光学技術)	525,000	688,740
	発送手数料 (ビームライン光学技術) (ワーズ)	108,300	
	仕入れ (検出器ガイド)	55,440	
学会奨励賞費	特注純銀メダル等		126,420
年会・合同シンポ支出	開催費	7,215,145	9,532,477
	委員会旅費	858,000	
	事務管理費 (ワーズ)	1,459,332	
行事開催費	基礎講習会開催費	148,541	603,843
	若手研究会開催費	455,302	
事業費	会議費	1,953,500	3,595,864
	通信費	395,788	
	印刷費	240,796	
	事務局交通費	119,380	
	公開市民講座開催費	286,400	
	AOFSRR 協賛金	600,000	
管理費	事務用品費	8,090	707,233
	消耗品費	226,400	
	給料手当 (選挙開票アルバイト)	18,000	
	運賃 (宅急便+メール便)	278,618	
	支払手数料	176,125	
	租税公課	0	
ワーズ事務委託費	ホームページ維持費	411,232	3,747,984
	Web 会員名簿維持費	203,700	
	会員業務費	718,738	
	庶務業務費	1,408,130	
	行事開催業務費	50,000	
	広告業務費	956,184	
会計業務費	税理士顧問料		460,000
諸会費	男女共同参画協会連絡会		5,000
支出の部合計			26,734,370

3. 収支計算の部

科 目	細 目	金	額
当期収支差額			1,868,192
前期繰越金			6,267,079
次期繰越金			8,135,271

2013年度資産負債明細

2013年9月30日現在

1. 流動資産の部

(単位 円)

科 目	細 目	金 額
1. 現金及び預金	手持現金残高	132,582
	郵便振替残高	3,082,694
	三菱東京 UFJ 銀行普通預金残高	6,769,991
	三井住友銀行普通預金残高	5,690,744
2. 未収金	会誌販売未収残高	83,600
	販売収入 (ビームライン光学技術)	4,000
3. 立替金	第27回年会・合同シンポ (旅費など)	1,007,660
流動資産の部合計		16,771,271

2. 負債の部

科 目	細 目	金 額
1. 会費前受金	正会員会費	6,512,000
	学生会員会費	124,000
	賛助会員会費	2,000,000
負債の部合計		8,636,000

3. 剰余金の部

科 目	細 目	金 額
1. 前期繰越金		6,267,079
2. 当期収支差額		1,868,192
剰余金の部合計		8,135,271

日本放射光学会2014年度予算書
自 2013年10月1日 至 2014年9月30日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	細 目	金	額
会費収入	正会員会費収入	9,000,000	12,270,000
	学生会員会費収入	170,000	
	賛助会員会費収入	2,200,000	
	購読会員会費収入	400,000	
	特別賛助会員会費収入	500,000	
会誌収入	会誌広告収入	3,200,000	4,002,000
	会誌販売収入	200,000	
	別刷収入	350,000	
	会誌カラー印刷費	252,000	
年会・合同シンポ収入			11,530,000
行事開催収入 基礎講習会	100,000		100,000
単行本出版収入 雑収入	販売収入 (ビームライン光学技術)	400,000	400,000
	受取利息	700	700
収入の部合計			28,302,700

2. 支出の部

科 目	細 目	金	額
学会誌出版費	会誌印刷費 別刷印刷費 原稿料 会誌発送費 発送手数料 (ワーズ)	5,800,000 300,000 100,000 650,000 500,000	7,350,000
単行本出版費	発送手数料 (ビームライン光学技術) (ワーズ)	47,500	47,500
学会奨励賞費	特注純銀メダル等		189,630
年会・合同シンポ支出	開催費 委員会旅費 事務管理費 (ワーズ)	9,004,438 858,000 1,459,332	11,321,770
行事開催費	基礎講習会開催費 若手研究会開催費	100,000 500,000	600,000
事業費	会議費 通信費 印刷費 事務局交通費 公開市民講座開催費 AOFSRR 協賛金	2,000,000 400,000 250,000 120,000 300,000 500,000	3,570,000
管理費	事務用品費 消耗品費 給料手当 (選挙開票アルバイト) 運賃 (宅急便+メール便) 支払手数料	20,000 240,000 20,000 300,000 180,000	760,000
ワーズ事務委託費	ホームページ維持費 Web 会員名簿維持費 会員業務費 庶務業務費 行事開催業務費 広告業務費	420,000 210,000 750,000 1,500,000 50,000 1,000,000	3,930,000
会計業務費	税理士顧問料		460,000
諸会費	男女共同参画協会連絡会		5,000
支出の部合計			28,233,900

3. 収支計算の部

科 目	細 目	金	額
当期収支差額			68,800
前期繰越金			8,135,271
次期繰越金			8,204,071

日本放射光学会2014年度組織

■会長（任期：2013.10.01-2015.09.30）

村上洋一（KEK）

■幹事（任期：2013.10.01-2015.09.30）

庶務幹事 足立 伸一（KEK）

行事幹事 篠原 佑也（東大）

編集幹事 木村 昭夫（広大）

渉外幹事 濱 広幸（東北大）

会計幹事 木下 豊彦（JASRI）

■評議員

（任期：2012.10.01-2014.9.30）

雨宮 慶幸（東大）

石川 哲也（理研）

太田 俊明（立命館大）

岡島 敏浩（SAGA-LS）

尾嶋 正治（東大）

鎌田 雅夫（佐賀大）

木村 昭夫（広大）

木村 真一（阪大）

小杉 信博（分子研）

繁政 英治（分子研）

辛 埴（東大）

田中 均（理研）

水木純一郎（関学）

村上 洋一（KEK）

山本 雅貴（理研）

（任期：2013.10.01-2015.09.30）

足立 純一（KEK）

大橋 治彦（JASRI）

加藤 政博（分子研）

組頭 広志（KEK）

佐々木 聡（東工大）

大門 寛（奈良先端大）

高田 昌樹（理研）

竹田 美和（AichiSR）

中井 泉（東京理科大）

中尾 裕則（KEK）

原田 慈久（東大）

藤森 淳（東大）

松田 巖（東大）

矢橋 牧名（理研）

山田 和芳（KEK）

■行事委員（任期：2013.10.01-2014.9.30）

篠原 佑也（東大）委員長

阿部 仁（KEK）

高橋 幸生（阪大）

長坂 将成（分子研）

松原 伸一（JASRI）

矢代 航（東北大）

山本 達（東大）

■渉外委員

（任期：2013.10.01-2015.9.30）

濱 広幸（東北大）委員長

木村 洋昭（JASRI）

引間 孝明（理研）

平木 雅彦（KEK）

松下 智裕（JASRI）

（任期：2013.10.01-2014.9.30）

James Harries（JAEA）

■編集委員

（任期：2012.10.01-2014.9.30）

木村 昭夫（広大）委員長

舟越 賢一（CROSS）

水牧仁一郎（JASRI）

大東 琢治（分子研）

下村 晋（京産大）

為則 雄祐（JASRI）

藤田 貴弘（JASRI）

宮内 洋司（KEK）

山下 栄樹（阪大）

綿貫 徹（JAEA）

（任期：2013.10.01-2015.09.30）

秋山 修志（分子研）

吾郷日出夫（理研）

川村 朋晃（日亜化学）

小嗣 真人（JASRI）

佐賀山 基（東大）

富樫 格（JASRI）

沼子 千弥（千葉大）

野澤 俊介（KEK）

松井 文彦（奈良先端大）

吉村 大介（SAGA-LS）

■2014年度の主な事業計画

- 第6回 AOFSSR スクール（Cheiron School 2013）
2013年9月24日-10月3日（於：Spring-8）
- 第27回年会・放射光科学合同シンポジウム
2014年1月11日-13日（於：広島国際会議場）
- 第27回総会
2014年1月12日（於：広島国際会議場）
- 第18回学会奨励賞授与
2014年1月12日（於：広島国際会議場）
- 日本放射光学会市民公開講座
2014年1月13日（於：広島国際会議場）
- 若手研究会
- 放射光基礎講習会
2014年夏季開催予定
- 高輝度中型放射光源計画委員会
- 先端光源に関する委員会

- ・評議員会 (10月, 1月, 4月, 7月)
- ・幹事会 (12月, 3月, 6月)
- ・編集委員会 (年3回)
- ・行事委員会 (年1回 (年会時))
- ・第19回学会奨励賞受賞候補者選考会議
- ・次期評議員選挙
- ・学会誌の定期発行 (年6回)
Vol. 26, No. 6/2013年11月末発行

- Vol. 27, No. 1/2014年1月末発行
- Vol. 27, No. 2/2014年3月末発行
- Vol. 27, No. 3/2014年5月末発行
- Vol. 27, No. 4/2014年7月末発行
- Vol. 27, No. 5/2014年9月末発行
- ・第28回年会・放射光科学合同シンポジウム (2015年1月/立命館大学びわこ・くさつキャンパス) 準備

● 会誌オンライン利用方法に関するご案内 ●

編集委員長 木村昭夫
渉外幹事 濱 広幸

オンライン会誌にアクセスするには、放射光学会のトップページにある会員専用ボタンをクリックし、会員専用ページにアクセスする必要があります。

会員専用ページにアクセスするためのユーザー ID とパスワードは

User ID : jsr272

Password : tdjw9kvQ

です。このユーザー ID とパスワードは、次号が発行された後に失効します。

会員専用ページにある、学会誌「放射光」のオンライン閲覧をクリックして頂ければ、オンライン会誌を従来通りご覧頂くことができます。

会員以外の方へのパスワード漏洩は禁止いたします。また、記事の著作権は日本放射光学会にありますので、転載等のご希望に関しては、必ず事務局までご連絡下さい。良識あるご利用で、会員の皆様のお役に立てれば幸いです。

ホームページに関して問題等ございましたら、濱 (hama@lns.tohoku.ac.jp) までご連絡下さい。オンライン会誌に関するご連絡は、木村 (akiok@hiroshima-u.ac.jp) までお願いします。

■行事予定

開催月日	名 称	開 催 地	主催又は問い合わせ先	掲載巻・号
2014年 5/12	第50回真空技術基礎講習会	(地独)大阪府立産業技術総合研究所	日本真空学会関西支部, 大阪府技術協会, 日本真空工業会関西支部 E-mail: yamanaka@dantai.tri-osaka.jp	27・2
6/4-5	第57回表面科学基礎講座「表面・界面分析の基礎と応用」	大阪大学コンベンションセンター	公益社団法人 日本表面科学会 E-mail: shomu@sss.jp	27・2
7/6-9	第14回 SPring-8 夏の学校 —最先端の放射光科学を学ぶ—	SPring-8 キャンパス	(公財)高輝度光科学研究センター, (独)理化学研究所, (独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門, 兵庫県立大学大学院物質理学研究科・生命理学研究科, 兵庫県立大学高度産業科学技術研究所, 関西学院大学大学院理工学研究科, 東京大学放射光連携研究機構, 岡山大学, 北陸先端科学技術大学院大学 E-mail: 2014summerschool@spring8.or.jp	27・2
11/4-7	第27回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議 (MNC2014)	ヒルトン福岡シーホーク	公益社団法人応用物理学会 E-mail: secretariat@imnc.jp	27・2

本欄では、研究会、シンポジウム、国際会議等のおしらせを募集しております。掲載ご希望の方は事務局までご連絡下さい。一記事の長さは1/2ページ以下を目安とし、様式は事務局で変更させて頂く場合がございます。

■第50回真空技術基礎講習会

実習を主にした初級者のための真空技術基礎講習会

真空の基礎, 真空ポンプ, 計測, リークテスト等

主 催: 日本真空学会関西支部, 大阪府技術協会, 日本真空工業会関西支部

協 賛: 日本放射光学会, 他

日 時: 2014年5月20日(火)~5月23日(金)

場 所: (地独)大阪府立産業技術総合研究所

参加費: 主催団体会員 52,000円

協賛団体会員 55,000円

一 般 60,000円

定 員: 60名

締切日: 2014年5月12日(月)

申込・連絡先:

(地独)大阪府立産業技術総合研究所内

(一社)大阪府技術協会 担当: 山中富世

〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野 2-7-1

TEL: 0725-53-2329 FAX: 0725-53-2332

E-mail: yamanaka@dantai.tri-osaka.jp

http://www.vacuum-jp.org/

■第57回表面科学基礎講座「表面・界面分析の基礎と応用」

主 催: 公益社団法人 日本表面科学会

協 賛: 日本放射光学会, 他

日 時: 2014年6月4日(水)~6月5日(木)

場 所: 大阪大学コンベンションセンター

(大阪府吹田市山田丘 1-1)

参加定員: 100名 (定員に達し次第締め切ります)

費 用: 表面科学会正会員: 20,000円

表面科学会維持会員: 20,000円

表面科学会賛助会員: 25,000円

協賛学協会会員: 30,000円

表面科学会学生会員: 3,000円

学生 (非会員): 5,000円

その他: 35,000円 (テキスト代, 消費税を含む)

申込締切: 2014年5月30日(金)

申込方法: URL (<http://www.sssj.org/>) よりお申し込み下さい。

問合せ先:

日本表面科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-40-13

本郷コーポレーション402

TEL: 03-3812-0266 FAX: 03-3812-2897

E-mail: shomu@sss.jp

■第14回 SPring-8 夏の学校 —最先端の放射光科学を学ぶ—

SPring-8 夏の学校は、次世代の放射光利用研究者の発掘と育成を目的として、大学院修士（博士前期）課程に在学中の学生および学部4年生を主な対象*に、毎年夏に4日間の日程で開催され今年で14回目となります。

SPring-8 で活躍する最前線の研究者による講義と実習を組み合わせて行うことにより、放射光の原理と利用研究の基礎を学ぶと共に、放射光を使う実習によって最先端の実験を体験出来るようにカリキュラムが準備されています。また、SPring-8 のキャンパス内では究極の X 線源である自由電子レーザー（SACLA）が建設され、2012年3月に供用開始となりましたが、これについても学ぶことができます。

主 催：（公財）高輝度光科学研究センター、（独）理化学研究所、（独）日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門、兵庫県立大学大学院物質理学研究科・生命理学研究科、兵庫県立大学高度産業科学技術研究所、関西学院大学大学院理工学研究科、東京大学放射光連携研究機構、岡山大学、北陸先端科学技術大学院大学

日 時：2014年7月6日（日）～7月9日（水）（予定）

場 所：SPring-8 キャンパス

参加費：無料（但し宿泊費・交通費等は自己負担）

募集定員：60名程度

対 象*：

- 大学院修士（博士前期）課程の学生
（*人数に余裕があれば学部4年生も受け入れます）
- 所属大学で放射線業務従事者として教育を受け、登録されていること
- 主催大学の推薦枠あり（詳細はホームページをご覧ください）

申込期間：

4月21日（月）10：00～5月16日（金）17：00まで（予定）

申込方法：

On-line 登録での参加受付

<http://www.spring8.or.jp/ja/> ⇒ 「大学生・院生の方へ」 ⇒ 「夏の学校」 ⇒ 「第14回」

（Web サイトは3月下旬にオープン予定）

問合せ先：

SPring-8 夏の学校事務局

（公財）高輝度光科学研究センター（JASRI/SPring-8）研究調整部

〒679-5198 兵庫県佐用郡佐用町光都 1-1-1

TEL：0791-58-0987 FAX：0791-58-0830

E-mail：2014summerschool@spring8.or.jp

■第27回 マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議 （MNC2014）

主 催：公益社団法人応用物理学会

協 賛：日本放射光学会、他

日 時：2014年11月4日（火）～11月7日（金）

場 所：ヒルトン福岡シーホーク

問合せ先：

第27回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議事務局

（有）セクレタリーアート気付

〒154-0015 東京都世田谷区桜新町 1-18-14-302

TEL：03-3420-1800 FAX：03-3420-1840

E-mail：secretariat@imnc.jp

<http://imnc.jp/>

■新刊紹介

■結晶化学 —基礎から最先端まで—

著 者：大橋裕二

出版社：榊原華房

ISBN 番号：978-4-7853-3099-6

定 価：本体3,100円＋税